

# NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト

熊野を拠点に活動する「NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト」は、音楽イベントを中心に、映画上映会や勉強会を開いています。地域社会を核にした新しい活性化モデル、子育てモデル、働き方モデルに関する事業を行い、地域の魅力向上、労働環境や子育て環境、学習環境の向上、次世代の子育て生活についての啓発へとつなげています。



代表 東 由紀子さん

**お問い合わせ**  
 「NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト」  
 東 由紀子さん  
 熊野市紀和町小栗須29番地5  
 TEL 080-1763-2718

地域に暮らす子どもたちの未来が、豊かな自然に恵まれた地球であることを願い、小さな一歩を増やしてひとつと活動する「NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト」。

「Iru-cafe」のオーナーであり、「アトリエジータ」主宰のステンドグラス作家でもある代表の東 由紀子さんにお話を伺いました。

## — NPO設立の経緯をお聞かせください。

東：令和2年に結成しましたが、きっかけは空き家対策でした。カフェのある熊野市紀和町は山間の集落で人口減や高齢化の課題を抱え、住む人たちは減る

## — 東さんの人脈から人と人がつながったのですね。

東：イベントには熊野鬼城太鼓のメンバーもかけつけてくれて、来場者にも喜んでいただけました。カフェ裏の元自動車整備工場で、熊野の藍染め作家さんや市木木綿を継承する人たちの工芸品も販売したところ、好評で定期的に開催していこうとなりました。今では出演者も13組前後集まり、フォークあり、ロックあり、なんでも演奏しています。21歳の地元の子が同じ世代がいなかったらと、みんなに呼びかけ、幅広い世代のバンドを結成しました。

今はカフェの前にある入鹿中学校を会場に使わせていただいています。きれ



入鹿中学校を告知ポスターに※



世代を超えて音楽でつながる※



ジャンルさまざまに音楽を楽しむ※

一方でした。10年ほど前からは、都会からの旅行者、海外からのインバウンドで外国人の訪問も増えていて、カフェにいるとそういった人



「Iru-cafe」の店内

たちから移住についての問い合わせが多く寄せられました。それで家の情報を集めたり、家主さんと交渉したり、それならNPO法人を立ち上げようと数人の賛同を得て、発足しました。市内だけでなく、隣の尾鷲や新宮からも駆け

いな木造校舎で、木を使った本物の空間を見てもらえる機会になっています。

## — ほかに映画上映会や竹灯りイベントなどを開催していますね。

東：映画「地球交響曲」は、地球はそれ自体がひとつの生命体であるという理論に基づいて製作されたオムニバスのドキュメンタリーです。故・龍村 仁監督の妻のゆかりさんや笛奏者の雲龍さんを招いて上映しました。シリーズの「第六番」は音をテーマに、演奏シーンに熊野の風景が登場し、美しい映像と音楽に引き込まれ、熱心に鑑賞してくれました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな影響が広がっていたところ、こんな時にこそ家族や仲間と落ち着い

つけてくれるメンバーです。

## — 人と地域、人と人をつなぎ、そこから音楽イベント「あおぞらひとつなぎ」が生まれたのですね。

東：カフェのオープン2周年記念に音楽イベントをしました。地域の人たちがつながるための音楽です。アコーディオンが得意な人、キーボードだけある人、そういった人たちが、一曲弾けるわけではなく、それだけ披露する機会があれば、それを仕上げようと練習します。人前に出るといってプレッシャーが、がんばろうという気持ちにさせますし、うまくなると心地よいもの。ギター一本持ってきた人が、はじめて会う人とセッションをすることもありますよ。

て過ごす事が大切だと、

「全国47都道府県で灯す竹灯り・みんなの想火」で三重の事務局を担当しました。事前に各地で竹灯りを作るワークショップを行い、絆を



「あおぞらひとつなぎ」に参加のメンバー※

深めてもらいました。近くの入鹿八幡宮の大祭の日には、プチマルシェを開催したり、次は10月20日(日)にクマロックフェスを予定しています。

## — ご縁をつないで行動に移す東さん。音楽、そして熊野の芸術に触れる機会を作り、地域社会の活性化や住みよいまちづくりにご与与しています。

インタビュー…中村 元美

※印の写真は取材先から提供していただきました